

親鸞さまの

【本文】

如来二種の回向を

ふかく信ぜんひとはみな

等 正覚にいたるゆる

憶念の心はたえぬなり

【意識】

極楽浄土へ往かせて頂くこと、そして極楽から後の人のために現世に還って来る事も、全て阿弥陀様より賜ったことです。

その阿弥陀様が、南無阿弥陀仏、「この阿弥陀を依り所とせよ」と仰ることを、素直に聞き受けるならば、

極楽へ往かせていただくことが確かに定まって

阿弥陀様を思う心が絶えないのです。

【私の味わい】

ある中学三年生の女の子のお話。丁度受験を控えたその頃、お母さんが肺がんと診断されました。しかし、当時その子は自分の受験や部活のことで頭が一杯で、自分の後のことしか考えなかったそうです。また、母が入院してからは父親に連れられてお見舞いにも行きましたが、「早く帰って勉強がしたい」と気もそぞろでした。その半年後、お母さんは末期だった為、手術を受ける体力もなく亡くなっていかれました。その時は泣いたけれども、ああ、人が死ぬというのはこんなものか、何て呆気ないものなのだったこと。希望通り地元の進学校に進んだけれども、ついていけず部活も上手くないかないそんなある日、最近ほとんど使っていないメールアドレスの中を整理しようと久々に開封しました。すると、誤って破棄されていたお母さんからのメールが沢山見つかったのです。病床にあつて、娘を想って誕生日・部活・家事のことを気遣ったメールの数々でした。その女の子は、自分のことばかりを考えて、母親の心に気付かなかつたことを悔やむとともに、お母さんに「ありがとう」とつぶやいたそうです。

生前も、亡き後も働き続ける母心。私達の亡くなった身内、先人たちもそれぞれに私達を想ってくれていたことでしょう。その方達は、今、私達に極楽あること、極楽の道が阿弥陀様によって開かれていることを伝えてくれています。私達は、今までは気付かなかつた、自分の事だけに気を取られていたのかもかもしれません。しかし、この度その心に気が付かせて頂いたならば、今こそ感謝のお念仏を称えましょう。